

誰もが安全・安心に暮らせる まちづくりに取り組む

基本目標

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「尾道市が住みやすい」と感じる市民の割合	%	66.3 (R1)	70.0

基本的方向

1

生活基盤の充実により、賑わいと利便性が確保されている

都市機能を構成する災害に強いインフラ整備と地域の実情に応じた地域公共交通網を構築するとともに、未来技術を活用した新たな時代に対応した生活基盤の充実を目指します。

2

地域のコミュニティ機能が維持され、活動が活発である

市民一人ひとりが、それぞれ地域に積極的・主体的に関わり、個人、地域、関係団体、行政などと連携するまちづくりの支援、情報共有体制、環境整備の充実を図るとともに、地域課題の解決を担う人材育成を行い、地域機能の維持、活性化を目指します。

3

地域の防災体制が整備され、誰もが安心して生活している

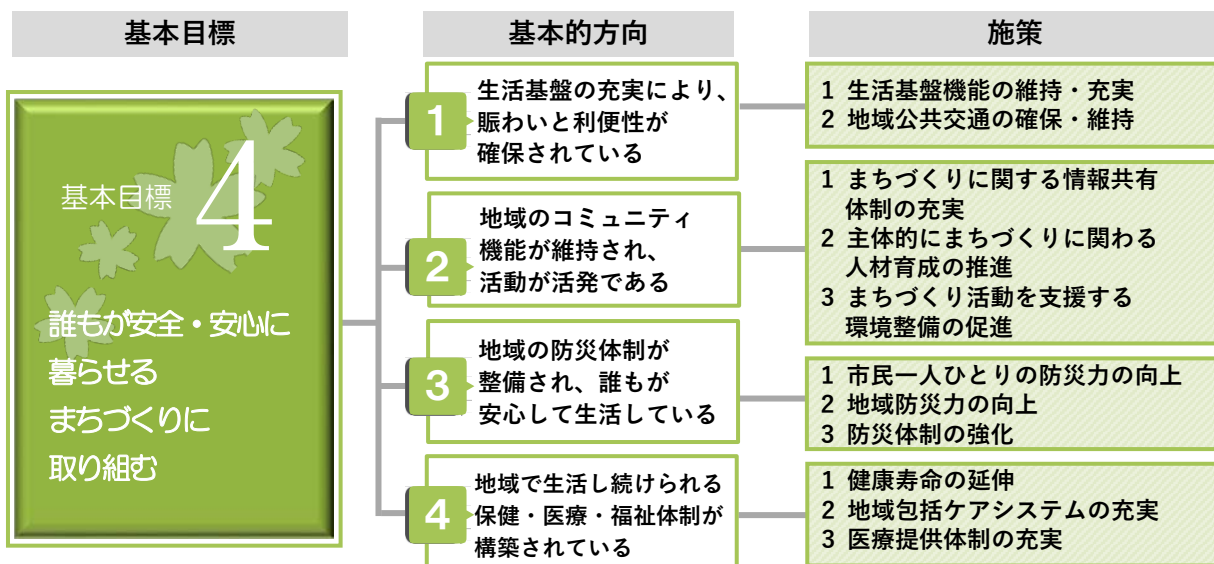
災害に対しては、「自分の命は自分で守る意識・自主防災力（自助）」、「自主防災組織などの地域防災力（共助）」、「充実した防災体制（公助）」の三助が連携して防災対策をすすめ、安心して生活できる環境づくりを目指します。

4

地域で生活し続けられる保健・医療・福祉体制が構築されている

住み慣れた地域で健康に安心できる生活が続けられるよう地域包括ケアシステム、医療提供体制の充実など、保健・医療・福祉の体制強化を目指します。

施策体系図



基本的方向と施策

1 生活基盤の充実により、賑わいと利便性が確保されている

基本的方向 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「生活の基盤が整い、日常的な暮らしが快適にできる」と感じる市民の割合	%	69.0 (R1)	75.0

施策 1 生活基盤機能の維持・充実

人口が減少すると、都市機能を支えるサービス産業の成立が困難となり、第3次産業を中心に、都市機能の低下が生じるおそれがあります。このため、日常生活を支える拠点として必要な都市機能の維持・充実を進めるとともに、人が集える地域の賑わいの創出を図ります。さらに、市民や企業が利用する5Gなどの情報通信基盤等の環境整備を促進するとともに、IoT等の未来技術を活用できるまちづくりを推進します。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「身近な道路を安全に通行できる」と感じる市民の割合	%	43.7 (R1)	50.0

具体的取組

- 都市機能の維持（都市公園施設改修事業など）
- スマートシティの推進
- 地域の賑わい創出（瀬戸田未来創造支援事業など）

施策 2 地域公共交通の確保・維持

マイカーの普及による利用者の減少や、人口減少・少子高齢化などによる運転手不足で、市民生活にとって必要不可欠な移動手段である地域公共交通の確保・維持が困難になりつつあります。このため、事業者間の連携による乗り継ぎ機能の強化など利便性の向上を促進し、地域の実情に応じた移動手段の確保に努めます。また、鉄道、バス、航路など多様な交通モードのシームレスな連携を図ります。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「公共交通機関が利用しやすい」と感じる市民の割合	%	36.6 (R1)	45.0

具体的取組

- 地域公共交通網形成計画の施策推進（地域公共交通協議会運営事業）
- 地域公共交通に対する意識啓発、利便性向上の促進（移動手段の在り方の意識啓発）
- 新たな交通サービスの推進（尾道版 MaaS 等の検証）

2 地域のコミュニティ機能が維持され、活動が活発である

基本的方向 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「地域コミュニティが良好に保たれている」と感じる市民の割合	%	44.4 (R1)	50.0

施策 1 まちづくりに関する情報共有体制の充実

市民がまちづくりに取り組むためには、地域の問題に気づき、地域で課題を共有し、地域や個人の行動につなげていくことが必要です。このため、市民活動団体等の活動事例の紹介など、まちづくりに関する情報共有体制の充実を図り、新たにまちづくり活動を始めるきっかけづくりや、他地域の活動を参考にすることによる既存の活動の発展・継続につなげます。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
まちづくり関連情報提供回数	回	13	20

具体的取組

○市民活動団体等の活動事例の紹介（市民活動支援事業パネル展など）

施策 2 主体的にまちづくりに関わる人材育成の推進

人口減少・少子高齢化の中で、まちづくりを担う人材の減少や後継者不足が課題となっています。市民がまちづくりに関心を持ち、主体的に関わるために、体験、研修などを通じて人材を育てていく必要があります。このため、一人ひとりがそれぞれに個性と能力に応じた担い手やリーダーになれるよう、人材育成を推進します。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
各種まちづくり研修参加者数	人	257	370

具体的取組

○担い手やリーダーの育成（市民活動支援事業、若者チャレンジ講座【再掲】など）

施策 3 まちづくり活動を支援する環境整備の促進

価値観が多様化し、さまざまな意見を持つ市民が増える中で、共通の課題を見つけることや合意が難しくなっています。また、参加意識や行動意識も多様化しています。こうしたことから、コミュニティ機能を担う人材が活躍するための、多くの場や機会、団体組織の充実が求められています。このため、話し合いの場・機会の創出、活動場所や組織づくりに対する支援を進めます。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
まちづくり活動団体数	団体	49	65
まちづくり活動団体参加者数	人	3,230	3,500

具体的取組

- 話し合いの場の創出（協働のまちづくり講座など）
- 活動場所や組織づくりに対する支援（出前講座など）

3

地域の防災体制が整備され、誰もが安心して生活している

基本的方向 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「地域の防災体策が進んでいる」と感じる市民の割合	%	36.3 (R1)	50.0

施策 1 市民一人ひとりの防災力の向上

災害が激甚化の傾向にある中で、防災関係機関だけでは迅速な災害対応が困難となることや、広域的な応援態勢にはさらに時間を要する場合も考えられます。このため、「自分の命は自分で守る」「市民一人ひとりが防災の担い手」であるとの意識を醸成し、防災対策に取り組むよう、防災知識の普及・啓発を推進します。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
防災訓練参加者数	人	4,950	5,500
出前講座参加者数	人	2,000	2,200

具体的取組

- 防災知識の普及・啓発（防災出前講座、防災センター活用推進事業など）

施策 2 地域防災力の向上

災害時の被害を最小限に抑えるためには、地域住民が連携して初期消火、情報の収集・伝達、避難誘導、被災者の救出・救護、避難所運営、給食・給水等の自主的な防災活動を行うことが重要であり、それを担う地域の事情に精通した自主防災組織等が必要です。このため、共助の中核を担う自主防災組織の設立・活動支援を積極的に図り、地域防災活動を促進します。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
自主防災組織結成率	%	62.1	80.0

具体的取組

- 自主防災組織の設立・活動支援（自主防災組織育成支援事業）
- 消防団への入団促進（消防団への入団促進事業）

施策 3 防災体制の強化

防災に資する施設・設備についてより高度かつ多様なものを導入するとともに、さまざまな災害発生時に、これらが実際に機能するよう、適切で弾力的な対応が必要です。このため、引き続き、消防署、消防団器具庫の整備、消防団員の確保や、防災拠点機能の整備、防災情報伝達機能の整備など、防災体制の強化を進めます。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「地域の防災体策が進んでいる」と感じる市民の割合	%	36.3 (R1)	50.0

具体的取組

- 防災拠点機能の整備と防災体制の強化（防災体制強化事業、消防団器具庫整備事業など）
- 防災情報伝達機能の強化（固定系デジタル無線システム整備事業）

4

地域で生活し続けられる保健・医療・福祉体制が構築されている

基本的方向 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「食生活や運動など健康づくりに対する支援が充実している」と感じる市民の割合	%	45.2 (R1)	50.0
市民満足度調査「医療体制やサービスが充実している」と感じる市民の割合	%	49.4 (R1)	55.0
市民満足度調査「必要な介護サービスが提供されている」と感じる市民の割合	%	54.4 (R1)	60.0

施策 1 健康寿命の延伸

広島県人口移動統計調査の推計人口による本市の健康寿命（平成 29 年（2017 年））は、男性が 78.73 歳、女性が 83.21 歳で、平均寿命との差が男性で 1.50 年、女性で 3.56 年となっています。このため、市民が健康で生活し続けることができるよう、生涯スポーツ環境の充実、各種健診の受診率の向上など、さまざまな健康管理・介護予防等に係る取組を推進します。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
健康寿命 (広島県人口移動統計調査による推計人口により算出)	歳	男性 78.73 (H29) 女性 83.21 (H29)	男性 延伸 女性 延伸

具体的取組

- 「尾道人生 100 才宣言」に応じた取組の充実（こころサポート事業、歯っぴー検診（歯周疾患検診）、予防接種事業（高齢者肺炎球菌）など）
- 市民のスポーツに取り組む環境の充実（スポーツ施設整備事業など）
- おのみち幸齢プロジェクトの推進（高齢ウォーキング推進事業、外出促進事業など）
- 特定健診、がん検診の受診率向上（特定健康診査、がん検診）

施策 2 地域包括ケアシステムの充実

高齢者が住み慣れた地域で元気でいきいきと暮らせるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムに取り組んでいるところです。今後は、認知症高齢者の増加が見込まれることから、本市においても引き続き、介護予防、認知症対策を含めた地域包括ケアシステムの充実に取り組みます。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「高齢者が地域社会で安心して暮らしている」と感じる市民の割合	%	47.2 (R1)	50.0

具体的取組

- 地域見守り活動の充実（一人暮らし高齢者巡回相談事業など）
- 介護予防・重度化予防の推進（シルバーリハビリ体操事業など）
- 認知症・権利擁護施策の充実（おのみち見守りネットワーク事業など）
- 介護従事者の確保（介護人材確保・定着支援事業）

施策 3 医療提供体制の充実

地域医療は、人口減少と少子高齢化により、急性期医療から回復期医療へのニーズの移行や、医療従事者の不足や医師の偏在など、さまざまな課題を抱えています。本市においても、市民が安心して適切な医療サービスを受けられるよう、救急医療体制の充実、産科医・小児科医等の確保、医師、看護師をはじめとした医療従事者の確保など医療提供体制の充実に努めます。

施策 KPI

指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R6)
市民満足度調査「医療体制やサービスが充実している」と感じる市民の割合	%	49.4 (R1)	55.0

具体的取組

- 救急医療体制の充実（救急医療体制充実事業、小児科診療支援事業、休日在宅当番医制事業など）
- 産科医・小児科医等の確保支援（産科医等確保支援事業、地域医療支援事業）
- 医療従事者の確保（医師確保奨学金事業）